



NAAは市東さんの南台農地を奪うな！

3・30天神峰現地闘争に集まろう！

みなさん。千葉地裁で18年以上たたかってきた成田市天神峰の市東孝雄さんの南台農地をめぐる耕作権裁判(2面参照)が3月24日に判決を迎えます。

市東さんは祖父の代から耕してきた南台農地をメインの畑として年間50種類以上の無農薬有機野菜を露地栽培で育て、産直の会員から「おいしい」と言ってもらえることに誇りと喜びをもって日々の営農に励んでいます。

現在、政府の誤った農業政策によって、野菜や主食の米の値段までもが高騰し、私たちの暮らしを直撃しています。他方で農家もまた、生きられない現実が強制されています。資材や燃料などあらゆる物の価格が上がる中、赤字にならないようにするので精一杯と言う状況です。とりわけ米農家の時給は10円と言われるほどです。さらに、気候変動の影響で作物を育てる困難さは増すばかりです。

私たち人間は、空港がなくても他の移動手段で済ますことはできますが、「食」なくしては生きていくことはできません。人類の歴史上、「食」をないがしろにして栄えた国があったでしょうか。

市東さんが耕す南台農地のように豊富な微生物を含み、多種多様な作物を育てることのできる農地は一朝一夕にはできません。

気候危機、食料危機に加え、民間空港の軍事使用が公然と始まる中で、私たちが59年貫いてきた農地を守りながら戦争に反対し、空港拡張を阻む闘いこそが正義であることが日々明らかになってきています。

私たちはどのような判決が下ろされようとも、体を張って農地強奪強制執行と闘います。3月30日、市東さんが耕す南台農地にぜひ駆けつけて下さい。NAA本社に向け共にデモに出ましよう。

3・24耕作権裁判判決日闘争

3月24日(月) 正午 千葉市中央公園集合
→千葉地裁包囲デモ
午後2時開廷 千葉地裁

3・30天神峰現地闘争

3月30日(日) 午後1時 市東さんの南台農地集合
→NAA本社へ向けてデモ行進



南台農地で農作業に励む市東さん

3・24 千葉地裁包囲デモ・傍聴に集まり、耕作権裁判の勝利判決をもぎとろう！

耕作権裁判は、NAAが市東さんの耕す南台農地の一部（右図のA、C、D）を不法耕作と決めつけ、2006年に市東さんにその明け渡しを求めた裁判です。ところが、Aの土地は市東さんの当初からの賃借地であり、C、Dの土地も賃借権を時効取得しています。

にもかかわらず、市東さんは、祖父が開墾し3代100年にわたって耕し続けてきた農地をNAAに「不法耕作地」と決めつけられ、新聞に「不法耕作の男」と書かれました。

NAAが畑の位置特定の根拠として提出してきた唯一の「証拠」が市東東市さん（孝雄さんの父）と旧地主が交わしたとされる「同意書」「境界確認書」です。しかし、これは作成経緯が不明で、署名も捺印も偽造されたものでした。裁判所もこれを根拠にして耕作位置の特定はできないと明言しました。

また、公共用地の取得に関する書類であるにもかかわらず、NAAは地主との交渉記録、報告書は何もないと言い張り、裁判所の文書提出命令にも従いませんでした。

裁かれなくてはならないのはNAAの側です。そもそも、空港公団（現NAA）は「二度と強制的な手段はとらない」「これからは住民との話し合いで」などと約



耕作権裁判判決に向けて
反対同盟顧問弁護士が記者
会見を開いた（14日）

束していたのではなかったのか。すべてがウソだったのです。

違法・脱法の限りを尽くし、ウソで塗り固められたNAAに「不法耕作者」の汚名を着せられた市東さんの屈辱を何としても晴らしましょう。

「農民の犠牲の上に平和な社会はない！ 農民としての誇りにかけて農地を守り、この地で農業を続ける」と語った市東さんの農地を守りぬきましょう。

千葉地裁包囲デモ、裁判傍聴への参加を心から呼びかけます。

「農民の犠牲の上に平和な社会はない！ 誇りにかけて農地を守り、農業続ける」

市東孝雄さん意見陳述（24年9月30日）

死亡原因1位が「心疾患」 千葉県内で芝山町だけ

千葉県が公表している「健康情報ナビ」の「死因順位の推移」によれば、町のほとんどが騒音下で最も航空機騒音を受けている芝山町だけが死亡原因の1位が心疾患となっています。(他の地域では「がん」が1位)

昨年11月29日の千葉県議会でこの件についての質疑が行われています。WHOは環境騒音ガイドラインの中で、心疾患について言及し、その後の疫学研究の知見の充実からWHO欧州事務局が夜間の騒音による睡眠妨害及びそれに起因する心疾患等の防止を目的とした欧州夜間ガイドラインを2009年に公表しました。

このガイドラインによれば、たとえ8時間の夜間時間帯の確保でも50%の人口しか保護できないこと。80%を保護するには10時間の夜間時間帯が必要だとしています。成田空港周辺では現在で6時間、機能強化後ではわずか4時間半となります。睡眠障害、心疾患が増えることは火を見るよりも明らかです。重大な健康被害を生む機能強化は白紙撤回以外ありません。共に声を上げましょう。

機能強化を白紙撤回させよう！

第3滑走路建設準備工事を許さないぞ！

デタラメな空港拡張工事を今すぐやめろ！

私たちは3月12日、「機能強化粉碎！フィールドワーク」を行いました。

芝山町の第3滑走路建設予定地で田んぼを重機で破壊し、森林を伐採して進められている準備工事を弾劾し、抗議の声を上げました。本格着工を許さず、共に機能強化絶対反対の声を上げましょう。



地域住民の声

今回は成田空港の年間発着枠を30万回から34万回に増やすために開かれた地元説明会に参加した芝山町の住民から。騒音に敏感な住民を切り捨てる麻生町長の発言への怒りの声です。

◆「騒音うるさく感じない」と言った町長のもとでは町は消滅する。生まれ育った土地守りたい。
芝山町 男性

昨年暮れ、芝山町の「やすらぎの里」でNAAと千葉県は成田空港の年間発着回数34万回に向けた説明会を開催した。

すでに四者協議会で50万回化という暴挙を合意しているにもかかわらず何を今さら説明するというのだろうか。私は出来レースありきの説明を聞きに来たのではない、意見を述べるために参加している。やがてNAAや県の説明が終わり質疑応答に入った。

その時を待っていたかのように一人の男性が挙手をした。「34万回飛行は反対だ。機能強化の合意も認めない」とぼっさり説明会を切り捨てた。説明会を設定した町長やNAAは予想外の意見に思惑がはずれ、鳩が豆鉄砲を食っ

たような表情に変わった。

さらに男性は「人の営みは、この地が生活しやすい、子育てしやすいから人々が集まり町を形成してきたのである。機能強化は騒音という公害を空から1日20時間以上も降らし続け、うるさくて生活できるわけがない。騒音をこれ以上受け入れれば町の人口はどんどん減少し3000人を下回りいつか消滅してしまう」

「町長。町内には音に対して敏感な感受性の高い町民もいる。例えば子どもや高齢者、持病のある人などはどう救うのか。死ねというのか」

その意見にメンツをつぶされたと思ったのか町長は逆切れし、「私はうるさく感じません」という言葉を発し、「時間がない」と説明会を強制終了させたのである。

そもそも説明会の開催は四者協議会内で決めたことで、機能強化前に30万回を超える場合はNAAが各自治体に説明するように決めていたのである。自分たちのルールに従い、芝山の一町だけで説明し、全体でも説明をしましたという構図を作り上げ、幕引きを凶ったのです。

騒音をうるさく感じないという町長では十分な騒音対策を講じられるわけがない。芝山町が消滅する前に、住民の健康と郷土を考える人たちが集い、生まれ育った土地を守りたいものである。